ユーザーガイド — Nebra

ソフトウェア ツール プラットフォーム



本ガイドの目次：

- Nebra のはじめ方
- デバイスの管理
- ネットワークの管理
- タグの管理
- スナップショットの管理
- フォルダの管理
- 設定の管理

Nebra のはじめ方

Nebra ソフトウェアは software.meyersound.com. から無料でダウンロードできます。使用を開始する手順は以下の通りです：

1. Nebra ソフトウェアのダウンロードとインストール
2. ネットワーク スイッチへの接続
3. Nebra の起動

1. Nebra ソフトウェアのダウンロードとインストール

https://software.meyersound.com/nebra, にアクセスし、「**Download**」をクリックします。

macOS の場合

1. **Finder**（通常は**ダウンロード** フォルダ）でダウンロードした .zip ファイルを探し、展開します。
2. Nebra-2.x.x.pkg インストーラー ファイルを選択して開きます。
3. ソフトウェア ライセンス利用規約に「**Agree**」を選択します。
4. デフォルトのファイル パスを使用する場合は「**Install**」を選択するか、別の保存先を選択します。
5. インストールが完了したら「**Close**」を選択し、**アプリケーション** フォルダから Nebra を開きます。

> **注意**
>
> **macOS 15 Sequoia** をお使いの場合は、**ローカル ネットワークのプライバシー設定**を更新してください。
>
> 1. **システム設定** > **プライバシー** > **セキュリティ** > **ローカル ネットワーク** を開きます。
> 2. **Nebra** のすべてのインスタンスを有効（すでに有効な場合は一度トグルをオフにしてから再度オン）にします。

Windows の場合

1. **エクスプローラー**（通常は**ダウンロード** フォルダー）でダウンロードした .msi ファイルを探します。
2. Nebra-2.x.x.msi ファイルを選択してインストーラーを立ち上げます。
3. **Nebra セットアップ ウィザード**を進め、**エンドユーザー ライセンス契約（EULA）**に同意します。
4. 「**Next**」をクリックしてデフォルト パスにインストールするか、別の場所を選択します。
5. 「**Yes**」を選択してアプリが変更を加えることを許可します。

AVDECC ドライバーが見つからないというポップアップが表示された場合は、「OK」を選択してドライバーをインストールしてください。

osascript への変更許可を求める通知が表示された場合は、変更を許可して「OK」を選択します。

2. ネットワーク スイッチへの接続

機器のテレメトリー データを伝送するには、IPv6 対応の標準的な 100bT Ethernet スイッチが必要です。Avnu 認証済みの AVB ネットワーク スイッチは必須ではありません。

ただし、Milan デジタル オーディオの伝送を行う場合は、Milan 機能をサポートする Avnu 認証済み AVB ネットワーク スイッチ が必須となります。認証済みハードウェアの一覧は Avnu Alliance のウェブサイトで確認できます。

ネットワークスイッチの詳細については、 Recommended Network Switches for Milan AVB Systems を参照してください。

3. Nebra の起動

- コンピューターがインターネットに接続され、Milan AVB 機器と同じネットワークに接続されていることを確認します。
- Nebra アプリケーションを起動し、meyersound.com のログイン認証情報を入力します。
- Nebra はネットワークに接続されている以下の機器を自動検出します：
    - Avnu 認証済みネットワーク スイッチ
    - Galileo GALAXY プロセッサー
    - Milan エンドポイント スピーカー

Meyer Sound MilanのAVB対応デバイスに関する詳細については、**ユーザーガイド - AVBネットワークの管理** をご覧ください。

デバイスの管理

デバイス — 製品統合（Product Integration）の適用

デバイス — デバイス名の変更

デバイス — 複数のデバイスを一括で変更する

デバイス — デバイスを特定する（ウインク）

デバイス — ファームウェアのアップデート

デバイス — 製品統合の適用

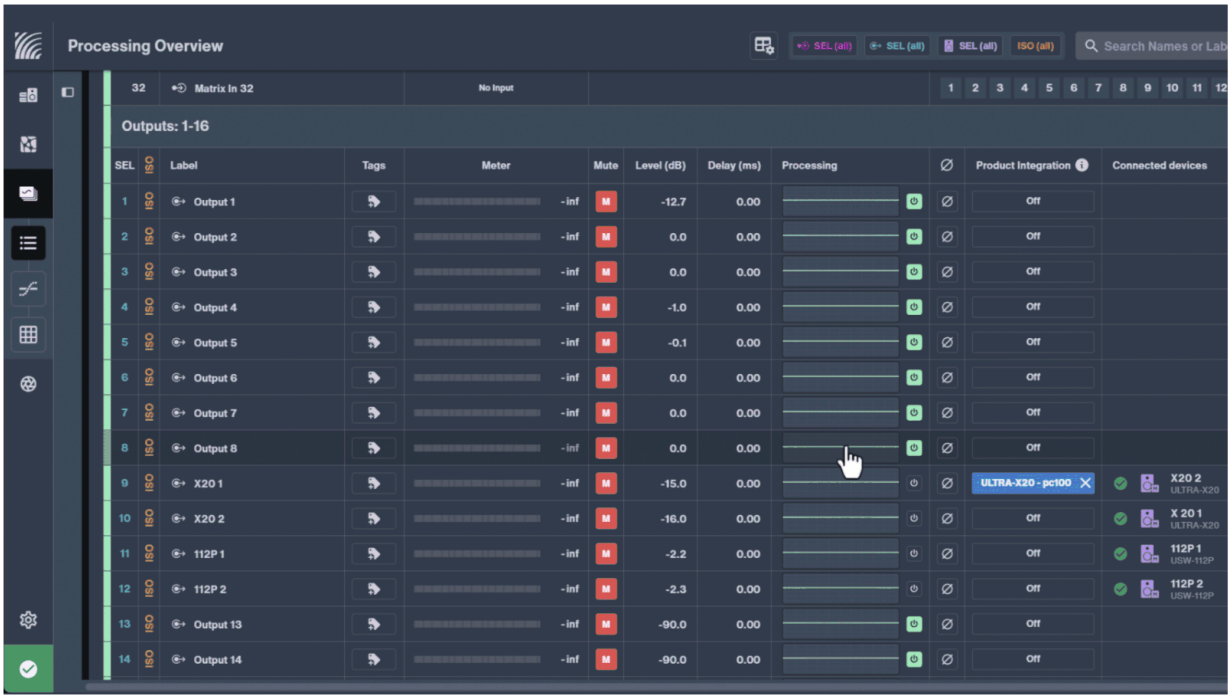
Meyer Soundの製品統合機能を使用することで、異なるMeyer Sound製スピーカー モデルを適切に整合させるために不可欠な、最適な位相特性と最大限のパフォーマンスを確保できます。

出力チャンネルの設定を行う前に、製品統合の設定を行ってください。

製品統合を適用する手順：

1. 「**Processing Overview**」で 「**View Settings**」を選択します。
2. 「**Show Product Integration**」 をオンにします。
3. 出力チャンネルの「**Product Integration**」列にある「**Off**」をクリックし、接続されているデバイスに適合する**スピーカー モデル**、**Phase Correction**、および**Processor Starting Point**（利用可能な場合）を選択して、「**OK**」をクリックします。

適切な位相補正を適用するには、システム内の全スピーカーで最も低い共通位相を選択してください。



デバイス — デバイス名の変更

Nebraが起動すると、利用可能なすべてのデバイスを検出し、それらにデフォルト名を割り当てます。デバイス名の変更：

デバイス名を変更するには：

1. 「**Devices**」内で、デバイスの「**Name**」をダブルクリックします。
2. 名前を編集し、「**Enter**」 キーを押します。

デバイス — 複数のデバイスを一度に変更する

複数のデバイスを選択して、それらを同時に変更します。

複数のデバイスを一度に変更するには：

1. の「**Processing Overview**」で、複数の入力文字または出力番号を選択するか、Shift キーを押しながら連続する範囲を選択します。
2. いずれかのデバイスに変更を加えると、選択したすべてのデバイスに適用されます。

> **注記**
>
> - 値を入力する際に Option キーを押したままにしない限り、レベルの変更は相対的なものとなります。
> - 一括制御の操作は、デバイスやチャンネルのタイプが異なるものには適用されません。例えば、GALAXYのすべての入力と出力が選択されている状態で、いずれかの入力の「MUTE」をクリックするとすべての入力がミュートされますが、出力には影響しません。

関連機能：

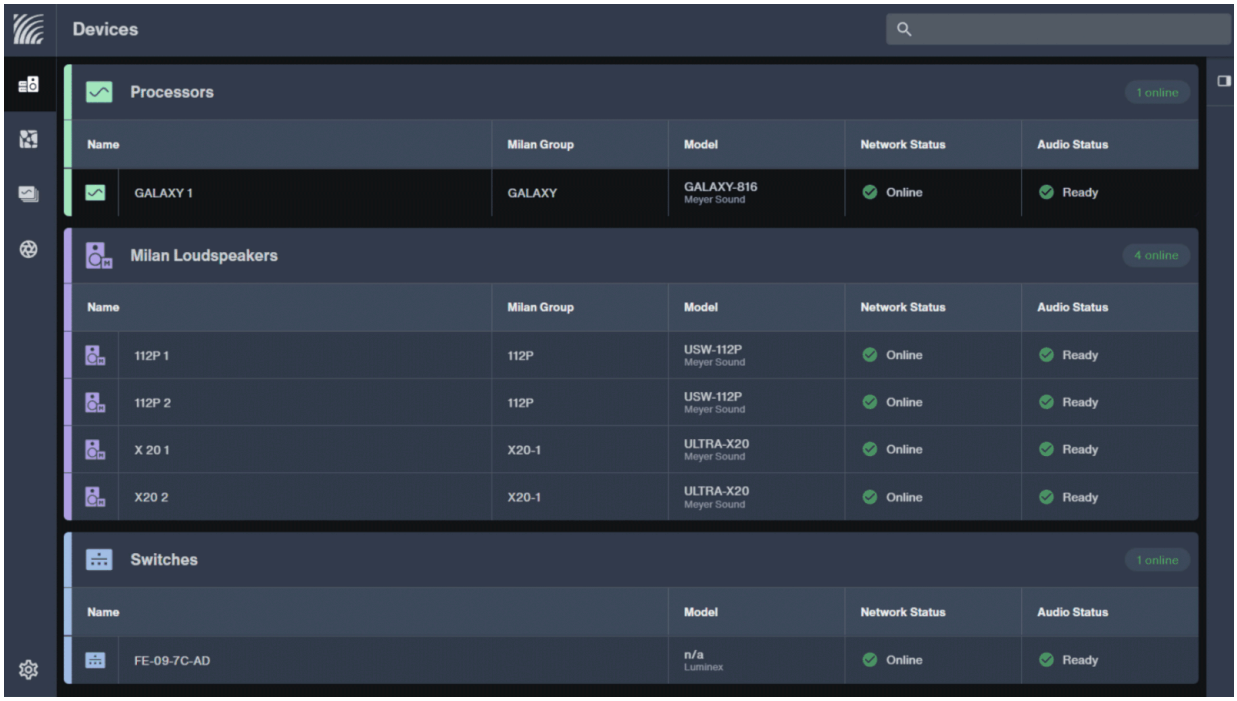
- 「Auto-SEL（自動選択）」を有効にしたタグを使用すると、カスタム選択範囲を保存し、再利用することが容易になります。「タグ — フィルター | 自動選択」の項目を参照してください。
- 検索機能を使用して、表示されるデバイスやチャンネルを絞り込むことができます。表示を絞り込んだ状態で、アプリケーション上部のボタンを使用し、すべての入力、出力、またはプロセッシング対象のスピーカーを選択できます。この操作では、その時点で表示されているデバイスのみが選択されます。

デバイス — デバイスを特定する（ウインク）

Meyer Soundのデバイスは、「ウィンク」機能を使用して識別できます。この機能では、前面パネルまたは背面パネルのLEDが点滅します。

デバイスでWink機能を使用するには：

1. 「**Devices**」で、特定したいデバイスを右クリックして「**Wink**」にチェックを入れます。複数のデバイスでWink機能を使用する場合は、同様の操作を繰り返します。
2. **Wink**機能をオフにするには、デバイスを再度右クリックし、「**Wink**」のチェックを外します。



デバイス — ファームウェアのアップデート

Nebraは、以下を含むMeyer Soundのすべてのスピーカーおよびデバイスのファームウェアを更新できます：

- Type 3P, GEN-1
- Nadia
- GALAXY
- Type 3M, MEP
- MPS-X
- Bluehorn GALAXY
- CAL
- RMServer

Nebraを使用して、接続されたMeyer Sound Milan AVBデバイスのファームウェアを更新するには、2つの方法があります：

- Automatic download（自動ダウンロード）
- Manual install（手動インストール）

自動ダウンロード

Nebra を起動し、コンピュータがインターネットに接続されている場合、最新のファームウェアバージョンが自動的にダウンロードされます。

更新が必要なデバイスに対して新しいファームウェアバージョンが利用可能な場合、アプリケーションウィンドウの上部に通知バナーが表示されます。

自動的にダウンロードされたファームウェアを使用して、接続されたデバイスを更新するには：

1. ファームウェア通知バナーの「**View Details**」を選択します。
2. 各デバイスに対して「**Install**」を選択するか、「**Install All**」を選択して、デバイスファームウェアの最新バージョンをインストールします。

手動インストール

ファームウェアファイルをお持ちの場合は、以下の手順でデバイスを個別に手動更新してください。

接続済みデバイスのファームウェアを手動で更新するには：

1. ファームウェアファイルを、Nebraを実行しているコンピュータにコピーします。
2. 「**Devices**」でデバイスを右クリックし、「**Manual firmware install**」を選択します。
3. ファームウェアファイルを選択し、「**Open**」を選択します。

ネットワークの管理

Meyer Soundのネットワークには、以下のオーディオハードウェアコンポーネントが含まれます:

- Meyer Sound NADIA プロセッサー
- Meyer Sound Galileo GALAXYプロセッサー
- Meyer Sound Milan エンドポイント (MEP)
- GEN-1テクノロジー搭載のType 3P入力カードを備えたMeyer Sound製スピーカー
- サードパーティ製Milan AVBネットワークスイッチ

スイッチおよびネットワーク構成の詳細については、「Recommended Network Switches for Milan AVB Systems（Milan AVBシステム推奨ネットワークスイッチ）」および『User Guide — Managing AVB Networks（ユーザーガイド - AVBネットワークの管理）』を参照してください。

ネットワーク — Milan AVB 機器の接続

ネットワーク — Milan AVBデバイスの接続を解除する

ネットワーク — デバイスをシステムのメディアクロックとして指定する

ネットワーク — Milanグループ名を編集・検索する

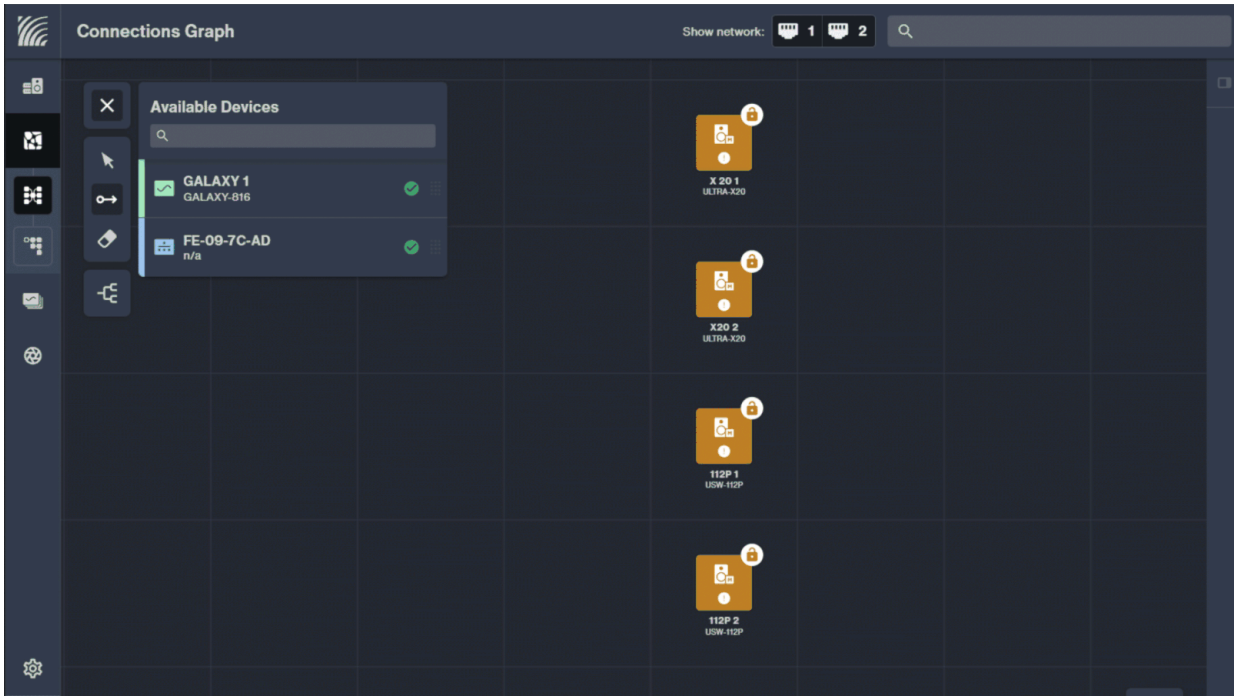
ネットワーク — プライマリからのフェイルオーバー用セカンダリネットワークを構築する

ネットワーク — Milan AVB 機器の接続

1. 「**Connections Graph**」で「**Select**」ツールを選択し、グリッド上でデバイスをクリック＆ドラッグして接続します。
2. 「**Connect**」ツールを選択します。接続する2つのデバイス間をクリック＆ドラッグします。
3. 交点をクリックして、トーカ（送信）チャンネルとリスナ（受信）チャンネルを接続します。

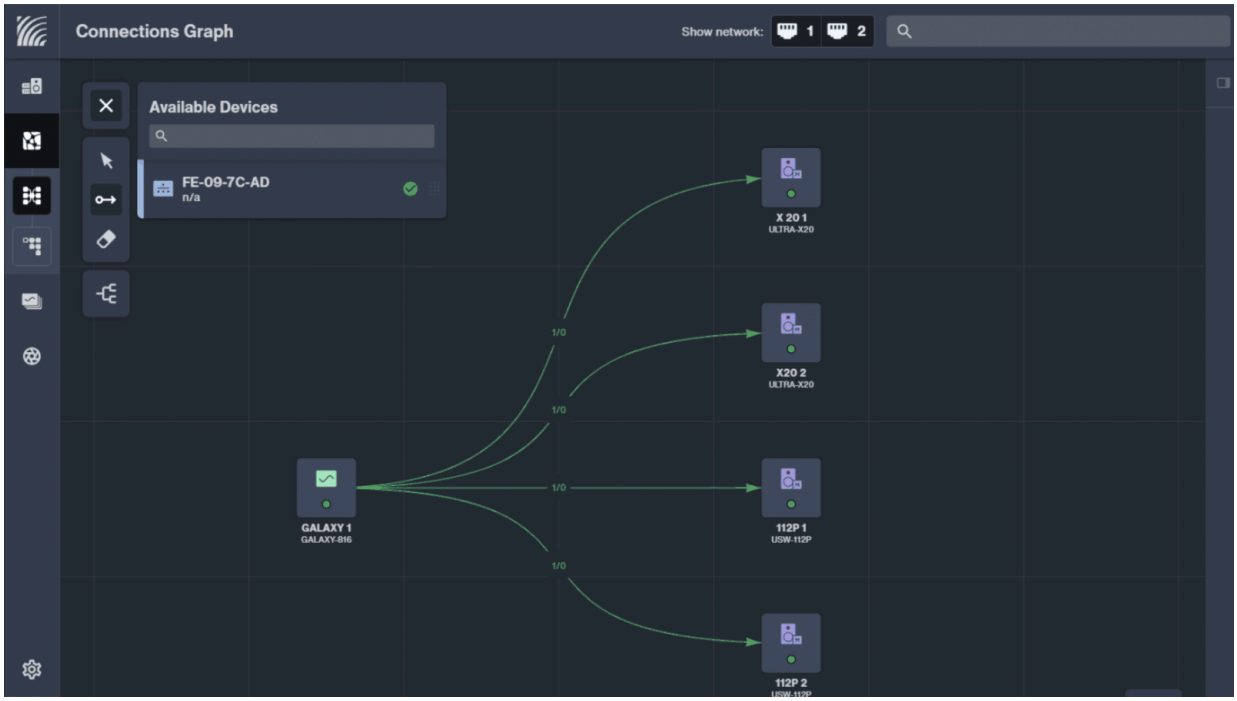
   接続されると、セルは緑色の背景に白いチェックマークが表示された状態になります。

   セル左上の隅はプライマリ ネットワークの接続状態、右下の隅はセカンダリ ネットワークの接続状態を示します。



ネットワーク — Milan AVBデバイスの接続を解除する

1. 「**Connections Graph**」で、切断するデバイスを右クリックし、**[Delete connections]** を選択します。
2. 「**Delete**」を選択します。



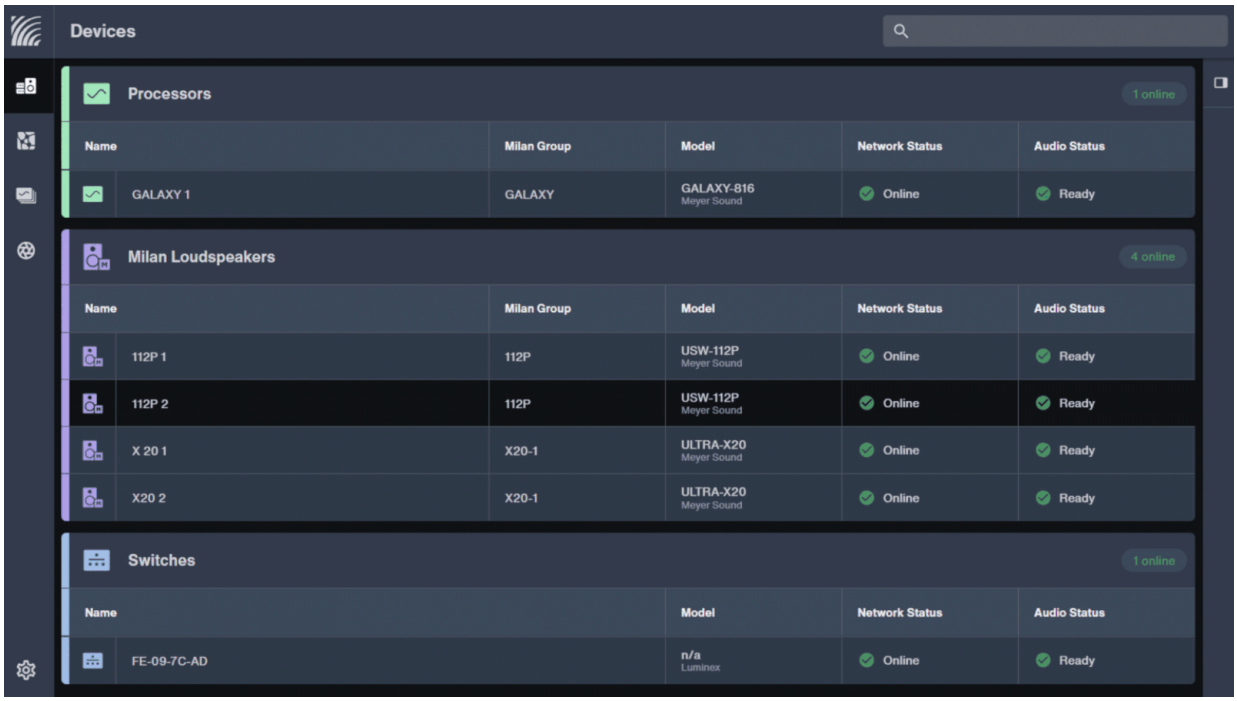
ネットワーク — Milanグループ名を編集・検索する

Milanグループを使用して、Milanデバイスにラベルを付けたり、整理したりします。

例えば、サブウーファーに関連するすべてのスピーカーやチャンネルをまとめた「**Subs**」というMilanグループを作成します。その後、「**Subs**」で検索すると、名前に「**Subs**」が含まれるデバイスやチャンネルが表示されます。また、この方法を使えば、自動検出された新しいデバイスを、そのデフォルトのMilanグループ名で識別しやすくなります。

Milanグループ名の編集と検索の手順：

1. 「**Devices**」で、Milanグループ名をダブルクリックし、新しい名前（例：「**Subs**」）を入力して、Enter キーを押します。
2. 「search」に「**Subs**」と入力します。
3. 検索欄の「**X**」をクリックして、検索内容をクリアします。



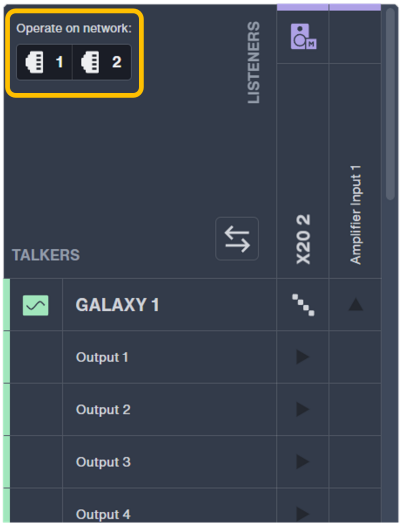
ネットワーク — プライマリからのフェイルオーバー用セカンダリネットワークを構築する

冗長化されたネットワーク接続を使用することで、プライマリネットワークとセカンダリネットワーク間での自動フェイルオーバーが可能になります。これにより、オーディオ信号は常に2つの別々のネットワーク上で伝送されます。

1. 「**Settings**」で、「**AVB Network**」を選択します。
2. 「**Operate on AVB Network**」で、「**1 & 2 Primary and Secondary Network**」を選択します。
3. 「**Connections Graph**」の「**Show network**」で、ネットワーク1とネットワーク2のアイコンを選択します。

> **接続線には、スラッシュで区切られた2つの数値（例：4/4、または16/0）が表示されます。1つ目はプライマリネットワークに接続されているチャンネル数、2つ目はセカンダリネットワークに接続されているチャンネル数を示します。**

4. 「Connection Matrix」でデバイスを接続する際は、「Operate on Network」でネットワーク1とネットワーク2のアイコンを選択します。



> **マトリックスの各セルにおいて、左上の隅はプライマリネットワークでの接続を、右下の隅はセカンダリネットワークでの接続を示します。**

ネットワーク — デバイスをシステムのメディアクロックとして指定する

1. 「**Settings**」で「**Media Clock**」を選択します。メディアクロックがまだ作成されていない場合は、「**Set Media Clock**」をクリックします。追加のメディアクロックを作成する場合は、「**Add Media Clock**」を選択します。
2. 「**Set Media Clock**」または、別のものを追加する場合は「**Add Media Clock**」を選択します。
3. 使用するメディアクロックデバイスを選択し、「すべてのデバイスが選択したメディアクロックに追従する（**All devices follow the selected Media Clock**）」にチェックを入れてから、「**Apply**」をクリックします。

ネットワーク — デバイスの自動検出に関するトラブルシューティング

Nebra上に思ったデバイスが表示されない場合は、以下の手順を実行してください。

デバイスの自動検出を妨げているネットワーク接続の問題を解決するには：

1. スピーカー、プロセッサー、電源ユニット、ネットワークスイッチの電源を入れます。
2. 表示されないデバイスを、Nebraを実行しているコンピューターと同じネットワークに接続します。
3. イーサネットケーブルテスターを使用するか、コンピューター、ネットワークスイッチ、および表示されないデバイス間のネットワークケーブルを交換します。
4. ネットワーク スイッチの再起動または再設定・交換を行います。

> **スイッチおよびネットワーク構成の詳細については、「Recommended Network Switches for Milan AVB Systems（Milan AVBシステム推奨ネットワークスイッチ）」および『User Guide — Managing AVB Networks（ユーザーガイド — AVBネットワークの管理）』を参照してください。**

タグの管理

タグを使用して、入力チャンネル、出力チャンネル、およびGEN-1 スピーカーのグループを整理・管理します。タグは「**Processing Overview**」および「**I/O Processing**」に表示されます。複数のチャンネルを選択し、タグアイコン　をクリックすることで、それらのチャンネルのタグを一度に編集できます。  .

> **タグ自体はハードウェアに保存されますが、タグの色はスナップショットに保存されます。タグの色を保存するには、必ずスナップショットを作成してください。**

タグ — 追加 | 削除

タグ — 作成 | アサイン

タグ — 削除

タグ — 編集

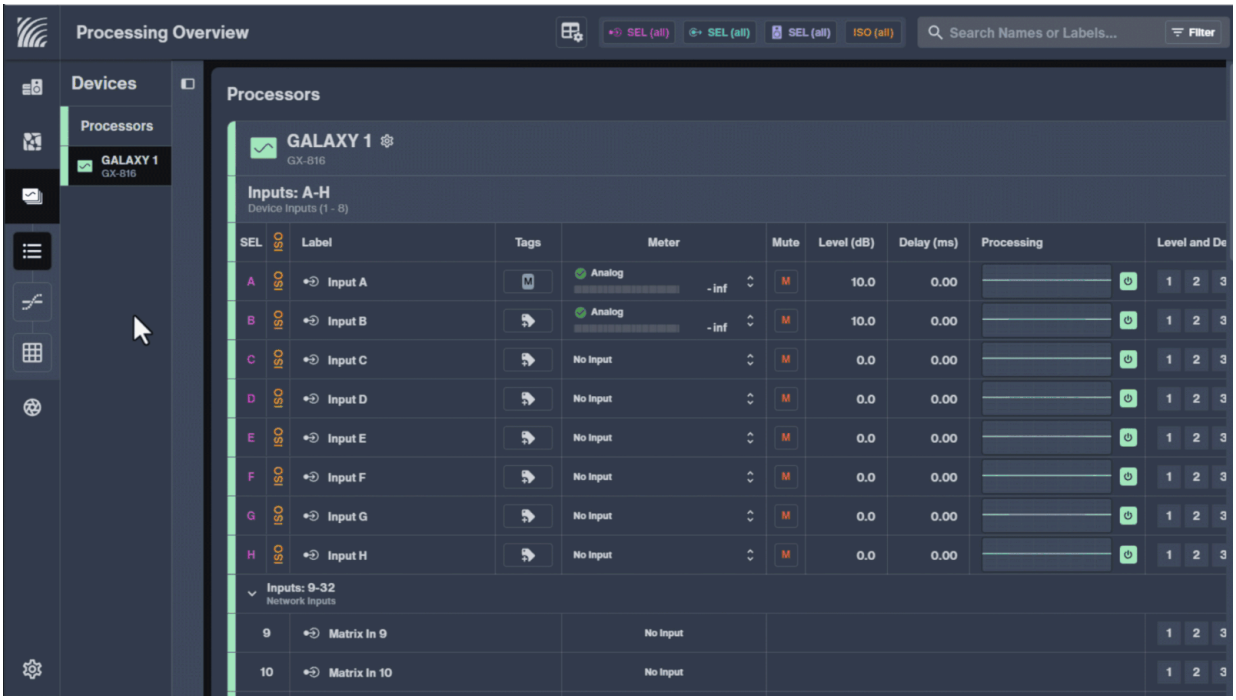
タグ — フィルター | 自動選択

タグ — 並べ替え

タグ — 追加 | 削除

デバイスやチャンネルにタグを追加または削除するには：

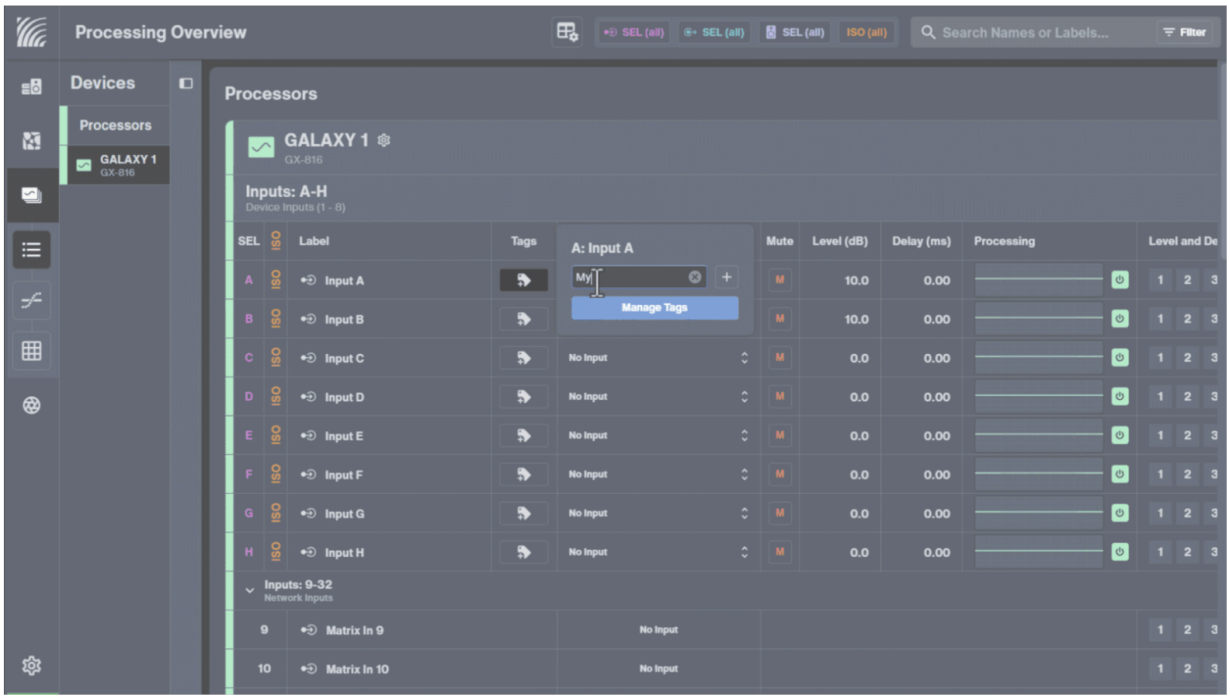
1. の「**Processing Overview**」で、対象となるチャンネルのタグをクリックし、適用するタグをクリックします。
2. 各タグの「x」をクリックして削除するか、「**Clear**」をクリックしてすべてのタグの適用を解除します。



タグ — 作成 | アサイン

タグを作成して割り当てるには：

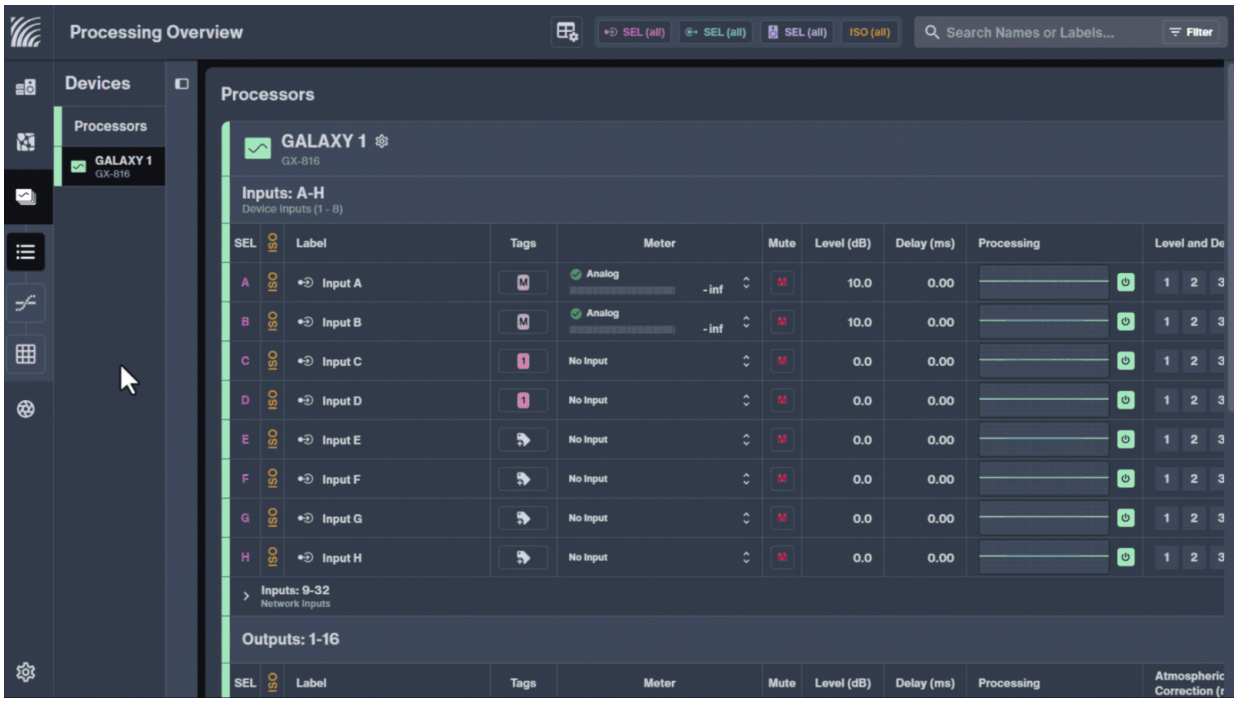
1. の「**Processing Overview**」で　をクリックします。
2. 「**New Tag**」に名前を入力し、 + をクリックします。
3. 新しいタグをクリックしてアクティブにします。
4. 「**Add Tag**」ウィンドウの外側をクリックして閉じます。



タグ — 削除

タグを削除するには：

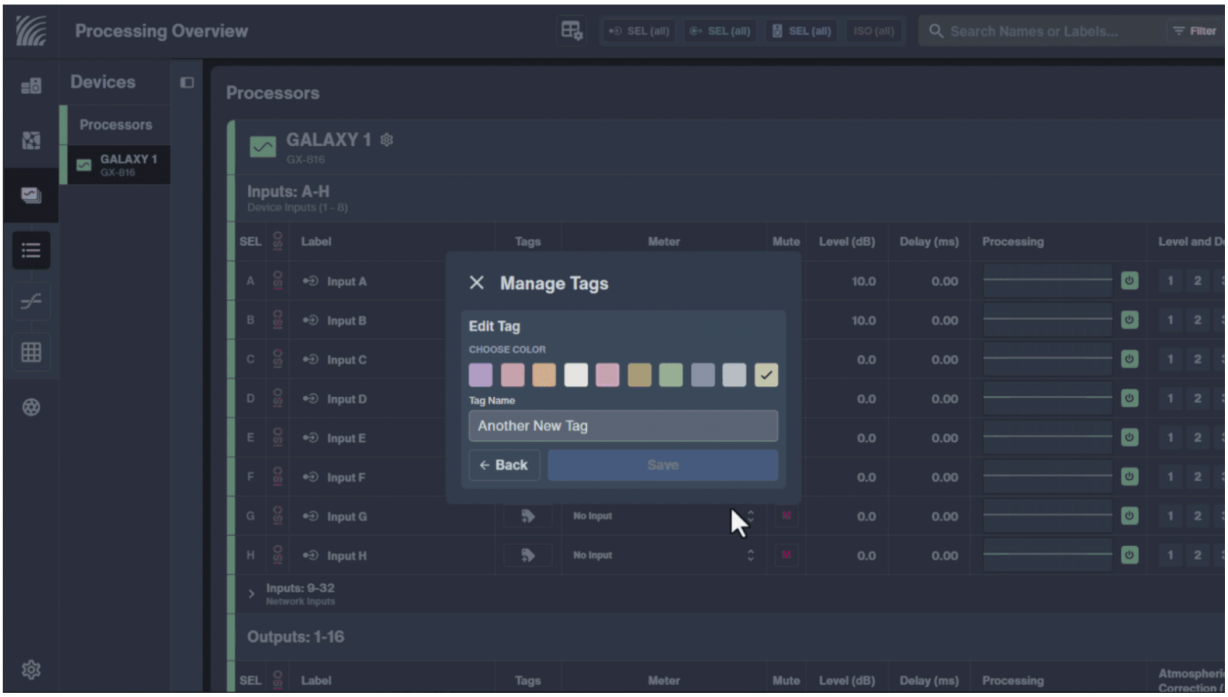
1. の「**Processing Overview**」でタグをクリックし、「**Manage Tags**」を選択します。
2. 削除するタグのゴミ箱アイコンをクリックし、「**Delete**」をクリックします。
3. 「**X**」をクリックして「**Manage Tags**」を閉じます。



タグ — 編集

タグを編集するには：

1. の「**Processing Overview**」で タグをクリックし、「**Manage Tags**」を選択します。
2. タグの鉛筆アイコンをクリックして編集します。
3. 「**CHOOSE COLOR**」および／または**タグ名**の編集を行い、「**Save**」をクリックします。（キャンセルする場合は「**BACK**」）
4. 「**X**」をクリックして「**Manage Tags**」を閉じます。



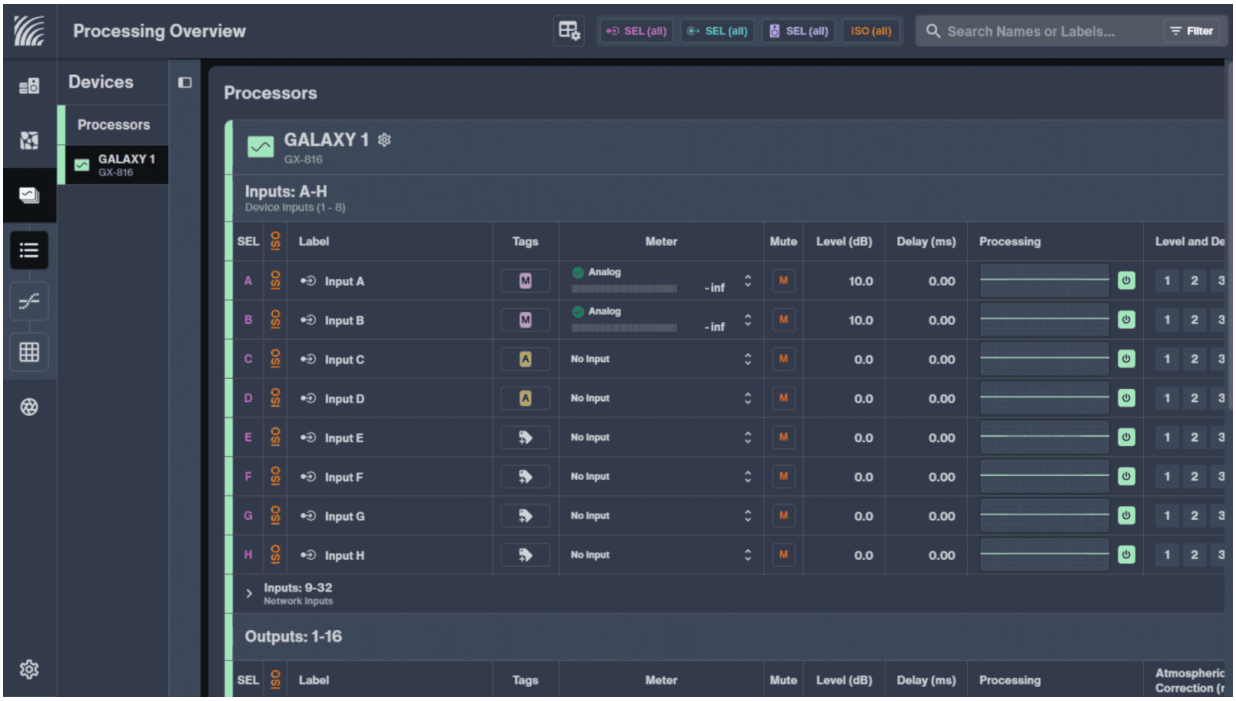
タグ — フィルター | 自動選択

タグでフィルタリングし、チャンネルを自動選択するには：

1. の「**Processing Overview**」で「**Filter**」をクリックします。
2. 表示したくない**チャンネルタイプ**のチェックを外します。
3. 「**Auto-SEL**」をオンに切り替えます。
4. 「**Filter Logic**」で、「**AND**」または「**OR**」を切り替えます。

   「AND」は、選択したタグをすべて持つチャンネルを表示します。

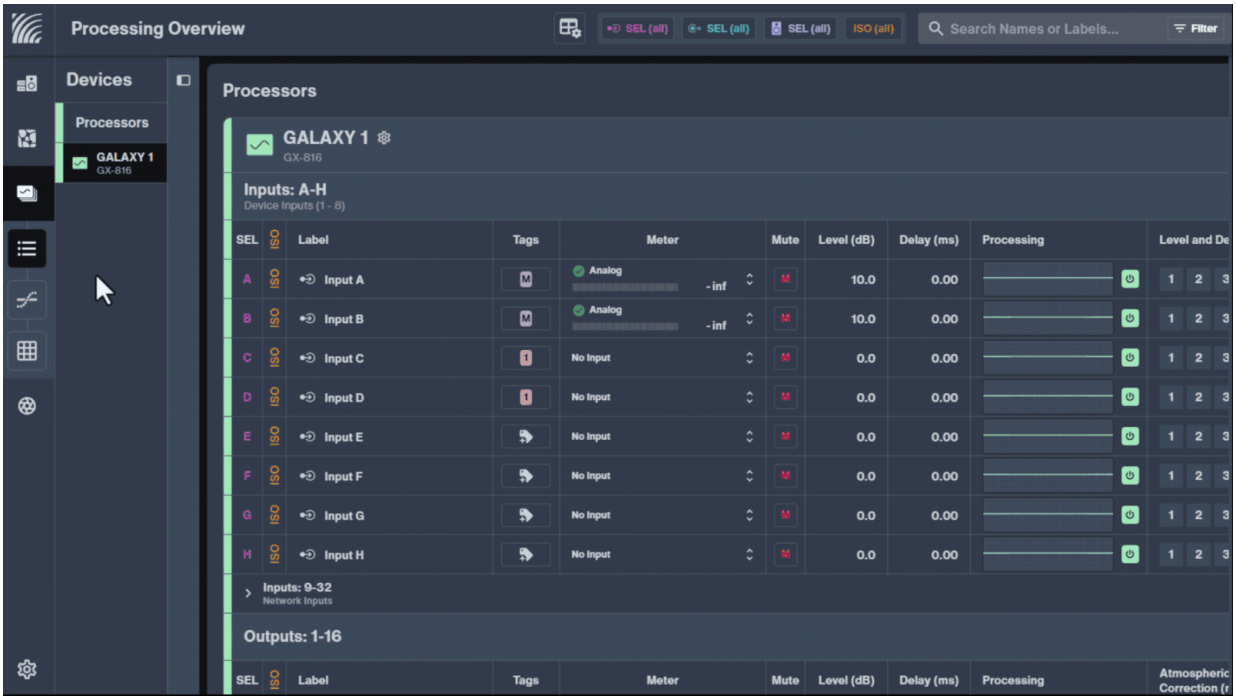
   「OR」は、選択したタグのいずれかを持つチャンネルを表示します。
5. 「**AVAILABLE**」なタグをクリックしてフィルターを適用します。
6. 各タグの「**x**」をクリックしてフィルターから除外するか、「**Clear**」をクリックしてすべてのフィルターを解除します。
7. 「**Filter X**」をクリックして**フィルター設定**を閉じます。



タグ — 並べ替え

タグを並べ替えるには：

1. の「Processing Overview」でタグをクリックし、「Manage Tags」を選択します。
2. 3x4のドットグリッドをクリックしたまま、上下にドラッグします。
3. 「X」をクリックして「Manage Tags」を閉じます。



スナップショットの管理

Nebraの「スナップショット」機能を使用して、スピーカーの配置、ルーティング、チャンネル・ミックス・レベルなど、システム全体の設定を保存できます。ライブ・パフォーマンスやインスタレーションにおいて、複雑な空間音響シーンを即座に呼び出したり、自動化したり、あるいはシーン間をクロスフェードさせたりすることが可能です。

スナップショット — Galileo GALAXY | GEN-1 スピーカー設定の呼び出し

スナップショット — Galileo GALAXY | GEN-1 スピーカー設定の保存

スナップショット — 別のコンピュータへの転送

スナップショット — Galileo GALAXY | GEN-1 スピーカー設定の呼び出し

Galileo GALAXY | GEN-1 スピーカー設定を呼び出すには：

1. のスナップショット で、呼び出し を選択します。
2. 「**Recall Snapshot**」の「**CONNECTIONS**」で、接続の呼び出し方法を選択します。
   - **「現在の接続を置き換える」** — スナップショットの接続が現在の接続を置き換えます。
   - **「現在の接続と統合する」スナップショットの接続を優先** — スナップショットの接続が現在の接続に置き換わります。
   - **「現在の接続と統合する」現在の接続を優先** — 現在の接続が維持されます。
   - **「レイアウトのみ」** — フォルダー、スイッチ、RMS デバイス名などの視覚的なレイアウトのみを呼び出します。接続は変更されません。
3. 「**PROCESSORS**」で、「**Recall settings & parameters**」をオンまたはオフにします。
   - 接続を除くすべての設定とパラメーターを呼び出します。
4. 「**Recall Snapshot**」を選択します。

スナップショット — Galileo GALAXY | GEN-1 スピーカー設定の呼び出し

Galileo GALAXY | GEN-1 スピーカー の設定を 保存 するには：

1. の スナップショットで「 + New Snapshot」を選択します。
2. 「New Snapshot」で、名前と（必要に応じて）コメントを入力します。
3. 「Also store current parameters in internal device memory（現在のパラメータをデバイスの内部メモリにも保存する）」のオン／オフを切り替えます。

スナップショット — 別のコンピュータへの転送

スナップショットを別のコンピュータに転送するには：

1. の Snapshotsで、「**Export**」を選択します。
2. 「**Export Snapshots**」で、エクスポートするスナップショットを選択し、「**Export**」を選んで保存先を指定してから、「**Save**」をクリックします。
3. エクスポートされた .zip ファイルを、転送先のコンピュータに移動します。
4. の Snapshotsで、「**Import**」を選択し、エクスポートした .zip ファイルを選んでから、「**Open**」をクリックします。

フォルダーの管理

フォルダーを使用してデバイスをグループ化することで、整理や管理が容易になります。

フォルダー — 作成

フォルダー — 解除

フォルダー — 移動

フォルダー — 名前の変更

フォルダー — 作成

デバイスをフォルダに移動するには：

1. の「Devices」で、新しいフォルダに含めるスピーカーを選択します。その際、(連続するデバイスの場合) Shift キーを押しながら選択。
   また、(連続しないデバイスの場合) Macは Command ⌘ キー、Winは(Ctrl)キーを押しながら選択してください。
2. を クリックして新しいフォルダーを作成します。

フォルダーには、同じカテゴリのデバイスのみを含めることができます。

デバイスは、一度に1つのフォルダーにしか割り当てることができません。

フォルダー — 解除

デバイスフォルダーを解除するには：

1. 「**Devices**」でフォルダを右クリックし、「**Dissolve folder/s**」を選択します。

フォルダー — 移動

デバイスをフォルダーに移動するには：

1. 「**Devices**」でデバイスを右クリックし、「**Move to folder**」を選択します。

フォルダー — 名前の変更

デバイスフォルダーの名前を変更するには：

1. 「**Devices**」でフォルダ名をダブルクリックしてテキストを編集し、Enter キーを押します。

設定の管理

設定 — アプリのライトモード／ダークモードの切り替え

設定 — 測定単位の変更

設定 — ライブパフォーマンス中のNebra機能の制限（ショーモード）

設定 — アプリのライトモード／ダークモードの切り替え

さまざまな明るさの環境でも見やすくするために、表示モードを変更します。

アプリのライトモード／ダークモードを切り替えるには：

1. ⚙「**Settings**」で「**Display Settings**」を選び、「**Appearance**」で「**Dark Mode**」 または「**Light Mode**」を選択します。

設定 — 測定単位の変更

大気補正のパラメーターである「距離」と「温度」について、使用する測定単位を選択します。

測定単位を変更するには：

1. ⚙「**Settings**」で「**Units**」を選択し、「**Distance**」で「**meter (m)**」または 「**feet (ft)**」を選択します。
2. 「**Temperature**」で「**°Celsius**」または「**°Fahrenheit**」を選択します。

設定 — ライブパフォーマンス中のNebra機能の制限（ショーモード）

ライブパフォーマンス中にNebraの機能を細かく制限するには：

1. ⚙「**Settings**」で「**Show Mode**」を「**Off**」に設定します。
2. 「**Restricted functions during live performance（ライブパフォーマンス中に制限する機能）**」下記の項目をオンまたはオフにします：

   - Change connections（接続の変更）
   - Change entity /group name（エンティティ／グループ名の変更）
   - MC media clock modifications（MCメディアクロックの変更）
   - Snapshot recall（スナップショットの呼び出し）
   - RMS discovery（RMSデバイスの検出）
   - Mute（ミュート）

- Wink（識別点滅）
- Remove devices from the connection graph（接続グラフからのデバイス削除）
- Restore factory default（工場出荷時設定への復元）
- Manual firmware update（手動ファームウェア更新）
- Automatic firmware update（自動ファームウェア更新）
- Assign inventory for MPS-488HP and MPS-488X（MPS-488HPおよびMPS-488Xのインベントリ割り当て）
- PO: level and mute（PO：レベルおよびミュート）
- PO: polarity, delay, input type, atmospheric correct and product integration（PO：極性、ディレイ、入力タイプ、大気補正、製品統合）
- I/O: parametric EQ, u-shaping, HPF, LPF and all pass（I/O：パラメトリックEQ、u-shaping、HPF、LPF、オールパス）
- Matrix: level and delay matrix（マトリックス：レベルおよびディレイマトリックス）

3. 「**Show Mode**」を「**Active**」に設定します。

株式会社アートウィズ
〒134-0003 東京都江戸川区春江町 5-11-2
Tel：03-5667-9682
https://artwiz.jp

© 2026著作権所有
無断転載・複製を禁じます